

第1回3ダムサブWG会議 (2004. 8. 7 開催) 結果報告

2004. 8. 25 庶務発信

| | |
|-------|--|
| 開催日時： | 2004年8月7日(土) 13:15~16:30 |
| 場 所： | 京都リサーチパーク 西地区4号館2階 第1会議室 |
| 参加者数： | サブWGメンバー委員14名、サブWGメンバー外委員6名、河川管理者39名 一般傍聴者(マスコミ含む)10名 |

1 審議の概要

※冒頭、水山リーダーより、3ダム(丹生・大戸川・天ヶ瀬)サブWGの進め方について説明が行われた。

- ・ 次回の3ダムサブWGで代替案の議論を、次々回で3ダムサブWGの結論(案)を作成したいと考えている。
- ・ 3ダムサブWGでは、各ダムの目的や必要性(治水面、利水面、環境面等)、クリアしなければならない条件(各ダムの歴史的経緯や地元の問題等)を整理したい。河川管理者には、環境への影響・コスト・効果等について、一覧表形式にまとめた資料をお願いしたい。

①丹生ダムについて

※河川管理者より、資料1-1~1-4を用いて説明が行われた後、主に高時川の瀬切れ問題について意見交換が行われた。主要な意見等は以下のとおり(例示)。

- ・ 高時川の瀬切れは、100年以上前から常態化している。これを解消するために社会投資(ダム建設)をすべきなのか、また、地元が瀬切れ解消をどこまで必要としているのかについて、議論すべき。
- ・ 瀬切れが自然現象であれば、これを解消する必要はないが、高時川の場合、農業用水の取水が瀬切れの大きな原因となっている。今後の農業用水の方向性について、検討すべき。
- ・ 生物生息環境の観点からみれば、瀬切れは魚類の移動障害の要因となっている。生物にとって致命的な時期(産卵期等)の移動経路を確保するための瀬切れ解消という視点で考えるべき。瀬切れだけを取り上げて議論をしても意味がない。
- ・ 瀬切れ解消は、「川らしい川」の回復のための重要な指標の1つだ。
- ・ 瀬切れ解消のためにダムが必要というのはおかしい。高時川の農業用水不足を解決するために、余呉湖からの逆水かんがい計画が進んでいる。
- ・ 高時川の瀬切れに関する資料は、水循環と生物の関係、河川水と農業開発の関係についてまとめればよいと思う。
- ・ ダム建設の目的として、瀬切れ解消だけを取り上げて意味がない。環境回復のためにダムを建設するには(毒をもって毒を制するというやり方を実行するには)、よほど明確な効果とその説明が必要だ。

←河川管理者にできるメニューの1つとして、ダムからの補給について説明した。瀬切れ解消のためだけのダム建設はハードルが非常に高いと思っているが、他の目的を確保しているダムに、瀬切れ解消のための容量を付加するという考え方は有効だと思っている。(河川管理者)。

- ・ 河川管理者には、コストを考慮した資料の提供をお願いしたい。たとえば、1m³/sあたりの維持流量を流すために必要なコストといった数値を明確にしておく必要がある。

②大戸川ダムについて

※河川管理者より資料1-5を用いて説明が行われた後、意見交換が行われた。主要な意見等は以下の

とおり（例示）。

- ・大戸川ダムに関しては、その効果について、メリット・デメリット等の詳細な情報を出してもらう必要がある。これまでの情報だけで、WGとしての結論が出せるか、不安だ。
 - ←現在作業中である。次回のダムWGでの提出は難しいが、できるだけ急ぎたい（河川管理者）。
 - ←各ダムの効果については、これまでに資料を提出しているが、追加的な情報も含めて、今後説明していきたい（河川管理者）。
- ・流域委員会は、地元の意見を見落としてしまう恐れがある。河川管理者は、地元の意見やダムのマイナス効果（ダム建設により洪水への油断が発生し、かえって被害が拡大する）について、追加記入した方がよい。
- ・10月以降にも、河川管理者による地元住民への説明会の開催が予定されているが、ここで出た住民意見はダムWGのとりまとめには反映されないのか。
 - ←ダムWGのとりまとめまでに出された住民意見については反映したい（リーダー）。

③天ヶ瀬ダム再開発について

※河川管理者より資料1-7を用いて説明が行われた後、意見交換が行われた。主要な意見等は以下のとおり（例示）。

- ・河川管理者は、将来的に琵琶湖の水位操作規則を変更するつもりがあるのか。
 - ←洗堰の操作規則は、歴史的な経緯を経て決定した規則があるため、現在のところ、これを前提に考えている。しかし、今後、必要があれば変えていきたいとは思っている（河川管理者）。
- ・天ヶ瀬ダム再開発に関しては、宇治川・塔の島地区の景観問題がポイントだろう。これに配慮すれば、事業を進めてもよいということで、委員会の意見はある程度一致しているのではないか。
- ・塔の島地区は、現在の河道のままでも、1500m³/s 流れるのではないか。

2 一般傍聴者からの意見：主要な意見は以下のとおり（例示）。

- ・宇治川・塔の島地区では、河道掘削に伴うさまざまな工事により景観破壊が進行している。委員会には、掘削以外の方法について議論して頂きたい。また、琵琶湖沿岸の浸水被害について、詳細なバックデータを用いた解析を行って頂きたい。
 - ←塔の島地区の掘削に関しては、現在も検討中だが、掘削ピッチを短くしたり、道路のかさ上げ等によって、河道掘削はできるだけ少なくしたいと考えている（河川管理者）。
- ・来年1月までに結論を出すという委員会のスケジュールは、河川管理者の調査検討の進捗を考慮して決定されたのか。委員の任期によってスケジュールが決定されたとすれば、大いに不満だ。
- ・利水の調査検討は、出そうと思えば出せる状況ではないか。委員会は、調査検討を急がせるべき。

3 その他

琵琶湖沿岸の浸水被害について、意見交換が行われた。主要な意見は以下のとおり（例示）。

- ・今年の水位操作では、10日間で数十cm低下させている。資料1-3にある河川管理者の考え（水位を10日程度維持）と一貫していない。こういうことが起きるなら、操作規則の変更が必要だ。
- ・水位操作については、流域委員会で議論しておくべきだ。そのためにも、河川管理者が新たな水位操作規則を考えてシミュレーションをし、その結果に基づいて議論を進めていく必要がある。
- ・結局、水位操作が環境に与える影響について検討結果が出ない限り、WGの結論は出せないのではないか。

開催日時： 2004年9月11日(土) 13:15~17:00

場 所： ピアザ淡海 3階 大会議室

参加者数： 委員 16名、河川管理者(指定席) 10名、一般傍聴者(マスコミ含む) 40名

1 審議の概要

①天ヶ瀬ダム再開発に伴う「塔の島」地区の河川整備について

河川管理者より資料1-1の説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り(例示)。

- ・「塔の島」地区の河川整備では、 $1,500\text{m}^3/\text{s}$ が検討の前提となっているが、1つの検討結果を示されただけでは、委員会として議論ができない。どの程度の河道掘削が最適かについて検討するために、例えば、放流流が $1,000\text{m}^3/\text{s}$ ならどの程度の河道掘削になるのかといった検討結果を示さなければならない。

← $1,500\text{m}^3/\text{s}$ 以外の場合に琵琶湖沿岸の浸水被害がどの程度軽減されるのか、もっとも効率の良い放流量を検討した結果、現況の放流量から $1,500\text{m}^3/\text{s}$ までの範囲であれば、整備すればするほど、効果があるとの結果が出て、歴史的経緯や政治的背景から $1,500\text{m}^3/\text{s}$ が必要最低の放流量ではないかということで検討を進めた。もちろん、だからといって、 $1,500\text{m}^3/\text{s}$ でなければならないということではないので、 $1,500\text{m}^3/\text{s}$ 以外の検討も行いたい(河川管理者)。

- ・亀石のフォトモンタージュは、それぞれ視角が異なっているので、統一すべきだ。

←今後、さまざまな角度からのフォトモンタージュを示したい(河川管理者)。

- ・塔の島地区をどのように 0.8m 掘削するのか。河床の横断図を示す必要がある。

←資料が見難いので、あらためて資料を提供したい。河川の横断系等まで精査できていない面もあるため、今後、きちんと示したい(河川管理者)。

②高時川の瀬切れのメカニズム

河川管理者より資料1-2の説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り(例示)。

- ・河川管理者の説明によれば、高時川頭首工が完成する以前の瀬切れについてのデータが不明とのことだが、地元の方に聞けば良いのではないか。

←頭首工と瀬切れ増加の関係を分析するためには、「何月何日にどこに瀬切れがあったか」までのデータが必要なため、6年間のデータを用いて説明した。住民の方の話も伺ったが、客観的・定量的なデータが得られるまでには至っていない。(河川管理者)。

③丹生ダム貯水池および高時川の水質予測

河川管理者より資料1-3の説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り(例示)。

- ・本当に、放流SS(懸濁物質)による問題は起きないのか。検討結果には多少疑問を覚える。

←検討対象となった過去11年間に大きな出水がなかったことも今回の結果に影響しているので、過去まで遡って検討を行い、どの程度の出水があればどの程度の濁水になるのか、調査したい。また、今回は、選択取水設備を使用するという条件で検討した(河川管理者)。

- ・丹生ダムの富栄養化が琵琶湖に与える影響について、どのような検討を行っているのか。

←現在のところ、丹生ダムではアオコが発生する可能性は低いと考えられているが、丹生ダムの水を琵琶湖へ放流すると琵琶湖にどのような影響を与えるかといったことも視野に入れて検討している(河川管理者)。

- ・ 渇水時に丹生ダム 1 箇所から琵琶湖に水が補給された場合、琵琶湖の水質や環境等はどうなるのか。河川管理者には、是非、検討してほしい。平成 6 年の渇水時、河川からの流入がなくなったため、琵琶湖の水質は非常によくなった。特に水のきれいな北湖に、丹生ダムから一気に水が補給されるとかなりの影響が出るのではないか。

←現在のところ、そこまでの検討はできていない。渇水時に丹生ダムからの補給水が琵琶湖に流入する水の全体に占める割合も含めて、調べてみたい（河川管理者）。

④「琵琶湖の水位低下抑制」と「異常渇水時の緊急水の補給」

河川管理者より資料 1-4-1、1-4-2 の説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・ 検討の条件設定に疑問を感じる。例えば、もっと早い時期から取水制限を開始すればどうなるのか、検討してみるべきだろう。また、丹生ダムができれば結果はどのように変わるのか。

←利水者の協力が得られれば、より早い時期から取水制限を行うことができる。また、丹生ダムの全容量を補給水として使えるかどうかかわからないが、できるだけ対応する（河川管理者）。

- ・ 琵琶湖の水位操作そのものを改善していかなければならないだろう。また、大阪府営水道の水需要予測が下方修正されつつあり、これも考慮しておく必要がある。
- ・ 丹生ダムの 1 億 m^3 を補給水として使うことができれば、琵琶湖の水位が約 10cm 回復できることだが、10cm で琵琶湖の環境がどれほど改善できるのか、疑問だ。

←取水制限日数や制限率が減少するといった社会的な効果は期待できる（河川管理者）。

2 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者 3 名より発言があった。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・ 河川管理者が実施している住民説明会で出た意見がダムWGには反映されていない。地元の意見を踏まえた議論してほしい。委員会と地元住民との対話討論会の開催を検討してほしい。
- ・ ダムWGは、河川管理者の検討結果に対して、バックデータまで求めていくべきだ。また、委員の検討に必要なデータを河川管理者に要求していかなければならない。
- ・ 塔の島地区の 1,500 m^3/s そのものの必要性について、もっと議論を深めてほしい。琵琶湖沿岸の浸水被害が約 7 戸なら、かさ上げによる対応の方がよい。また、1,500 m^3/s を長期間放流するための堤防補強に必要なコストを明らかにしてほしい。
- ・ 塔の島地区のフォトモンタージュについては、地元の住民説明会で不十分であるとの意見が出た。影響のある全ての場所でフォトモンタージュを作成するべきだ。
- ・ 参考資料 1 に、大阪府営水道の水需要予測の下方修正について意見が出されている。委員会は、この件について、府営水道と大阪市水道局を招いて説明をしてもらった方がよいと思う。
- ・ 高時川の瀬切れは頭首工の運用ルールを決めておかなかったことが原因であり、人為的な問題だ。これをダムで解消するのは、農業用水のためにダムから水を補給するのと同じことだ。

3 今後のスケジュールについて

庶務より今後のダムWGのスケジュールについて説明が行われた後、今本ダムWGリーダーより「ダムWGとサブWGを同時開催した方がよいので、今後のスケジュールについては変更となる可能性がある」との説明が行われた。